

重点管理項目

重点管理項目とは…

自社の事業活動と環境との関わりの中で最も重要なものです。この重点管理項目が目標設定の基本となっています。

新聞用紙の使用

電気の使用

廃棄物の発生・リサイクル推進

OA用紙の使用

備品の購入

サイト	2011年目標
横浜工場	全媒体損紙率1.93%以下
	電気使用量2010年（4,609,452kwh）以下
	産業廃棄物総排出量42.000kg以下
埼玉工場	全媒体損紙率3.00%以下 （安定稼働の推進）
	電気使用量を2010年（2,926,468kwh）以下 （各設備の効率的な運用・管理）
	産業廃棄物排出量を2010年（21,579kg）以下 （リサイクル率の向上）
八潮工場	全媒体損紙率2.20%以下
	電気使用量を2010年（5,393,602kwh）以下
	産業廃棄物 廃液、廃プラスチックの2010年（44,163kg）比排出量以下
立川工場	全媒体損紙率2.17%以下
	電気使用量2010年（4,103,158kwh）以下
	廃棄物、ゴミ分別達成率95%目標
千葉工場	全媒体損紙率2.38%以下
	電気使用量2010年（4,416,802kwh）以下
	産業廃棄物排出量2010年（41,814kg）以下
本社	OA用紙の使用量を2010年以下（全サイズ）
	リサイクル促進ルールの遵守率90%以上
	事務用品の環境配慮製品購入率100%

環境活動の取り組み

日経首都圏印刷の5工場は環境負荷を低減するモデル工場づくりに努めます。2009年7月7日に環境ISOの認証を取得しました。環境法令の遵守、環境負荷の抑制管理、環境目的・目標達成に向けた取り組みなど、環境マネジメントシステムに沿った適切な環境対応を全社員で進めています。

・大豆油インキの使用



主要資材の新聞印刷用インキは2000年に石油系から環境に負荷を与えない大豆油を利用したエコインキに切り替えています。

・廃液（現像液）削減装置の導入



製版関連の現像廃液は減圧蒸留（濃縮廃液処理）することで産業廃棄物を1/8に削減。これに伴い処理工場への運搬回数も減らせ、また重油焼却でのCO₂排出量を削減します。

・エネルギー使用量の削減



工場やオフィスではこまめな消灯、空調温度の適正な設定で電力削減を徹底しています。また電力設備も極力見直しを進め、省電力消費が実現できるよう温暖化対策を進めていきます。

・OA用紙使用量の削減



本社、工場間では電子文書・データを活用。また配布資料の減量を目的にプロジェクターを使った会議も行っています。

・購入品の環境負荷低減（グリーン対象品購入促進）



事務用品は環境配慮製品（グリーン商品）の購入に努めています。

・一般廃棄物の分別と再資源化



工場と事務所にゴミ分別箱を設置して、廃棄時の分別を徹底しています。分別された資源ゴミは再生価値の高い種類から順に、より良質な再生処理が実現するよう努めています。

・超々軽量新聞用紙を使用



新聞用紙で最も軽い 40g/m²の超々軽量紙を2000年から5工場で使用しています。通常の43g/m²の超軽量紙に比べて7%の新聞用紙を節約しています。新聞用紙の使用量を減らすことでCO₂排出量の削減も見込まれます。

・CTP方式受信製版設備



紙面データの受信製版はフィルムを使用せず、リサイクル可能なアルミ版にレーザー光で直接焼き付けるダイレクト製版（CTP）を導入、これによりフィルムを全廃しました。また使用済みのアルミ刷版もすべて回収し建材などに再利用されています。

・地域活動への参加



毎年、春と秋には地域の清掃活動「ごみゼロ運動」に参加しています。工場周辺の公共場所を地域住民の皆さんと清掃することで、地域の環境美化活動に貢献しています。（写真は千葉工場での地域清掃活動）